

日本臨床検査医学会 2018年度 第5回理事会 議事録

日 時：2018年12月22日（土）13：30～16：40

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事
宮地勇人、木村 聡、古田 耕、松尾収二、吉田 博、大西宏明、柴田綾子、長沢光章、下 正宗、
藤井 聡、萱場広之、東田修二、田中靖人、通山 薫 各理事
高木 康 監事（20名）

欠席：メ谷直人、小柴賢洋、松永 彰 各理事 福武勝幸 監事（4名）

会に先立ち、矢富裕理事長から挨拶があり、功労会員の米満博先生(千葉大名誉教授：2018/11/20：86歳)と水岡慶二先生（BML 顧問：2018/11：89歳）の逝去に際し黙祷を捧げ、その後、定款（議事録）第33条2.により出席した理事長、副理事長および監事が議事録署名人となる説明があり、理事会の議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の2018～2019年度の支部例会・総会・地方会の開催および活動報告、予定等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会報告（吉田 博担当理事）

2020年度応募から学術推進プロジェクト研究募集要項の一部改訂をすること、募集案内をホームページのトップページに掲載することが報告された。

2) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

第65回学術集会（2018年11月17日）時に、委員会を開催した。

2018年第2回日本医学雑誌編集者会議における編集委員会関連項目、学術著作権協会での複製や転載許諾など著作権の管理事業の加入、トピックスのテーマ等について検討をしたこと、論文掲載での無料別冊30冊を廃止し最終版pdfを配付することが決まった。会員に配布する臨床病理誌についてはweb版、抄録は冊子体とすること、雑誌名の変更、電子版英文誌について検討し、これらについては評議員にアンケート調査を実施すること等が報告された。

3) 教育委員会（山田俊幸 担当理事）

第65回学術集会（2018年11月17日（土））において、教育委員会企画のRCPC、Catch upセミナーを開催したことが報告された。

4) 標準化委員会（古田 耕 担当理事）

第65回学術集会（2018年11月17日（土））時に、委員会を開催した。

TSHのハーモナイゼーションに向けて、当会委員会と日本甲状腺学会ホームページに各社のIFCC補正式を掲載すること、日本人共用基準値について標準化データの妥当性も含めて今後検討すること、また、日本臨床化学会からの「ALP活性測定常用基準法変更」に関する意見募集について意見をまとめたことが報告された。

5) EBLM委員会（大西宏明 担当理事）

第65回学術集会（2018年11月16日（金））において、委員会企画としてEBLM教育セミナー（テーマ：医療ビッグデータの解析法）を開催したこと、また、委員会（2018年11月17日：土）を開催し協議のうえ、第66回学術集会でのEBLM教育セミナー企画は、「テーマ：大規模データのランダムサンプリング技術とその解析手法」、プロジェクトは、リアルデータを用いた検査精度の検証と検査診断特性データベースの作成のプロジェクトを企画することとなったことが報告された。

6) 利益相反委員会（古川泰司 担当理事、通山 薫 委員長）

第65回学術集会（2018年11月17日（土））時に、委員会を開催した。

役員COI自己申告用書式の微修正をしたこと、発表時の開示スライドは、5秒投影ルールを啓発し、開示内容があ

る場合は読み上げること、3年間COI申告書未提出の場合は、次年度から委員を認めないこと等を協議したこと、日本医学雑誌編集者会議・日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムから、当会としては賛助会員等の実態公開、また、論文投稿（編集委員会）の際は、ICMJE recommendation に則った方式 {authorship の厳格化と寄与者 (contributors) の役割明示と資金源、関連企業の役割の明確化} が求められることが報告された。

7) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事、吉田 博 委員長）

臨床検査のガイドライン JSLM2018 発刊に当たっての提案があった。なお審議事項として協議した。

8) 遺伝子委員会（宮地勇人 担当理事）

第 65 回学術集会（2018 年 11 月 15 日（木））時に、委員会を開催した。

昨年の臨時委員会議事録および昨年度委員会会議の活動とその後の経過として臨床検査振興協議会「がん遺伝子パネル検査の品質・精度の確保に関する基本的考え方（ver. 1.0）」（2018 年 10 月 30 日）を公表したこと、今後プロジェクトチームを結成して EQA スキームを実行すること等が報告された。

9) 医療安全委員会（吉田 博 担当理事）

第 65 回学術集会（2018 年 11 月 18 日（日））で、2018 年度医療安全講習会（病理部門における ISO 15189、医療メディエーション）を開催したこと、2019 年度医療安全講習会は、「医療法改正に伴う検査精度管理・院内検査の体制・検査フローにおける医療過誤への対応」をテーマとすることが報告された。

10) チーム医療委員会（柴田綾子 担当理事）

第 65 回学術集会（2018 年 11 月 15 日（木））時に、委員会を開催した。

第 65 回学術集会で委員会企画「在宅臨床検査学の世界」を開催したこと、「在宅臨床検査」について、POCT、精度保証、検査専門家の役割の観点の掘り下げる方向性で、委員会企画や指針作成を進めること、「パニック値」の対応に関する経時サーベイの実施や臨床医のアラートへの対応をモニターできる仕組みづくりを進めていくことが報告された。

なお、パニック値という名称が相応しくないのではないかと、標準化委員会と連携して検討することとなった。

11) ワークライフバランス委員会（山田俊幸 担当理事）

第 65 回学術集会において、ワークショップ「臨床検査の教育&キャリアプランを考える」（臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会、臨床検査専門医会教育研修委員会、日本医学会・日本医師会共催、2018 年 11 月 18 日：日）を「平成 30 年度 医学生、研修医等をサポートするための会」（日本医学会・日本医師会）の助成を受けて開催した。ポスターセッションとグループワークの 2 部構成のプログラムで、参加者は 40 名（男性 22、女性 18 名、うち検査専門医 23 名、専門医取得予定 8 名）であったことが報告された。

12) 臨床検査室医療評価委員会（長沢光章 担当理事、村上正巳 委員長）

第 65 回学術集会（2018 年 11 月 16 日：金）時に、委員会を開催した。

当学会ホームページ委員会ページへ「医療法等の一部を改正する法律の施行に関する情報」、「ISO 15189 認定に関するアンケート報告」、「委員会の取り組み」を掲載したこと、「医療法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係省令の整備に関する省令案」に関する学会としての意見を集約しパブコメを提出したこと、医療法ならびに臨検法の改正への日本臨床衛生検査技師会としての対応の状況、第 65 回学術集会でシンポジウム 10（日本臨床衛生検査技師会共催）「医療法・臨検法改正への具体的対応と今後の課題」（2018 年 11 月 18 日：土）を開催したこと、ISO 15189 認定施設を対象として再審査を含めた審査内容に関するアンケート調査を検討していること等が報告された。

13) 臨床検査専門医制度検討委員会（木村 聡 担当理事、村上 正巳 Subspecialty 小委員会委員長）

広報活動として、関西でハンズオンセミナーを開催できるように準備を進めることが報告された。

そして、当学会から国民に向けた「臨床検査の意義と専門家がが必要な理由」と「臨床検査医の役割」をアピールするため、メッセージ（案）が提案され検討のうえ概ね了承されたが、精度管理と精度確保の違いを明確にする修正と、検査の効率がが必要な理由を追記する意見があった。さらに理事に意見を求め、理事会前に開催された審議会で承認されたように当学会ホームページ、そして、臨床検査振興協議会のホームページへの掲載を進めることとなった。

14) Subspecialty 検討小委員会（村上正巳 Subspecialty 小委員会委員長）

サブスペシャルティ領域学会については、消化器内視鏡学会との連携は機構の認証を得たこと、感染症学会との連携には詳細を擦り合わせたうえ内科学会の承認が必要となる可能性があることが報告された。

3. 第 65 回学術集会報告（東京 2018/11/15(木)～11/18(日)、村田満 会長）（柴田綾子 当学術集会事務局長）

2018 年 11 月 15 日（木）～18 日（日）に、京王プラザホテルで、村田満会長（慶應大）のもと開催され、参加者数は 1,847 名だったこと、無料コーヒーが 1,500 杯飲まれたこと、今後、補助金の手続き、各種支払いをし、会計をまとめる予定であることが報告された。

4. 第 66 回学術集会報告（岡山 2019/11/21(木)～11/24(日)）（通山 薫 会長）

2019 年 11 月 21 日（木）～11 月 24 日（日）に、岡山コンベンションセンター（岡山）において、通山薫会長（川崎医大）のもと、テーマ「臨床検査からメッセージを発信しよう！」として開催予定であり、特別講演、シリーズ特別企画・臨床検査に何を求めるかー各科スペシャリストからの提言、ポスター発表と企業展示、学生フォーラム、他団体との共催企画、日本医学会連合連携フォーラム共催事業を検討中であること、演題募集は UMIN センター学術集会演題抄録登録システムの継続運用（有償）の方針が決定したこと等が報告された。

5. 第 67 回学術集会報告（岩手 2020/11/19(木)～11/22(日)、諏訪部章 会長）（東條尚子 庶務理事）

2020 年 11 月 19 日（木）～22 日（日）に、アイーナ（いわて県民情報交流センター：盛岡）において、諏訪部章会長（岩手医大）のもと、テーマ「人工知能（AI）時代の臨床検査」として開催予定であり、AI と臨床検査に関する情報集約と共有化の企画、日本医療情報学会と共催シンポジウムを開催すること、最終日午後を盛り上げる企画を検討していることが報告された。

6. 第 11 回特別例会報告（名古屋 2019/4/13(土)）（前川真人 特別例会長）（東條尚子 庶務理事）

2019 年 4 月 13 日（土）に、名古屋国際センター（別棟ホール）で、前川真人特別例会長（浜松医大）のもと、テーマ：「臨床検査医学、次のディメンジョンの幕開け」として、第 11 回日本臨床検査医学会 特別例会が開催予定であり、特別講演、例会長講演、シンポジウム 1、2、ランチョンセミナーをプログラムとして予定していることが報告された。

7. ALP 活性測定常用基準法（日本臨床化学会）変更に関する意見募集について（矢富 裕 理事長）

日本臨床化学会から、ALP 活性測定常用基準法についての意見募集があり、理事に意見を求めたうえで 2018 年 12 月 6 日に、日本臨床化学会と JCCLS に回答したことが報告された。

8. JCCLS 標準採血法 GL（GP4-A3）案に対する意見募集について（矢富 裕 理事長）

日本臨床検査標準協議会（JCCLS）から、標準採血法 GL（GP4-A3）案についての意見募集があり、評議員に意見を求めたうえで 2018 年 12 月 10 日に JCCLS に回答したことが報告された。

9. 臨薬協体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドライン検討活動について（矢富 裕 理事長、古川泰司 理事）

日本臨床検査薬協会で体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドラインを作成するにあたり、当学会の立場での意見を求めるため委員の推薦依頼があり古川泰司理事を推薦し、当ガイドライン作成に協力していくことが報告された。

10. 日本臨床検査同学院報告（宮地勇人 理事）

2018 年 9 月 2 日～2018 年 12 月 22 日の日本臨床検査同学院活動が報告された。

1) 臨床検査士資格認定試験結果報告

① 一級試験：16 名が受験し最終合格者は 6 名であった。（総数 241 名）

② 二級試験：受験者 1,613 名、合格者 1,010 名（合格率 62.6%）

③ 緊急試験：受験者 947 名、合格者 517 名（合格率 54.6%）

2) 2018 年 9 月 16(土)～17(日)に中級者のための病理技術 STEP UP 講習会が、日本大学医学部板橋キャンパスで受講者 19 名が参加して実施された。

3) 2018 年 11 月 16 日（金）に第 65 回学術集会での共催シンポジウムを、テーマ「検体検査の精度・品質確保に関する医療法等の改正における専門資格を考える」で開催した。

4) 第 34 回「緒方富雄賞」4 名の受賞者が決定した。

5) POCT 測定者（仮称）の資格認定制度を申請予定である

6) 内閣府の立ち入り検査における指摘事項を改善し 12 月 5 日に提出した。

11. その他

・大西宏明理事から AMED 研究についてのご紹介（大西宏明 理事）

AMED での人工知能の利活用を見据えた超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築基盤整備に関する研究が紹介され協議のうえ、当学会も AI の活用、応用等に関して検討する WG を設置する提案があり、常任理事会で検討し、理事会で再検討し、具体的に活動開始することとなった。

Ⅲ 審議事項

1. 第 68 回（2021 年度）、第 69 回（2022 年度）の学術集会長の候補について（矢富 裕 理事長）

第 68 回（2021 年度）ならびに第 69 回（2022 年度）の学術集会長として、関東・甲信越支部から山田俊幸先生（自治医科大学）、東海・北陸支部から北島勲先生（富山大学）2 名の推薦があった。

協議のうえ、第 68 回（2021 年度）は北島勲先生、第 69 回（2022 年度）は山田俊幸先生が、それぞれの学術集会長として承認され、社員総会に諮ることとなった。

2. ガイドライン作成委員会からの提案について（矢富 裕 理事長、東條尚子 担当理事、吉田 博 委員長）

「臨床検査のガイドライン JSLM2018」発刊について次項の提案があり、すべて承認された。

1) 発刊日は、2018 年 12 月末までの日付とする。

2) 紙媒体価格は、本体価格 4,000 円（税別）とする。

3) 宣伝とコア部分周知を目的として、ホームページ上に目次の掲載、第 1 章「検査値のアプローチ」の以下の項目（1. 初期診療の検査オーダの考え方、2 検体検査のサンプリング、3. 基準範囲・臨床判断値、4. 検査データの読み方と考え方、5. 検体の保存安定性）部分を公開する。

4) 広く周知、活用されることを目的とし電子書籍版も販売する（価格 2,000 円：税別）、印刷不可。

5) 発刊後は、2015 年版をホームページ上で公開する。

3. COI 申告書未提出者について（矢富 裕 理事長、通山 薫 委員長）

3 年間のうち 1 回も提出されていない 2 名については、役員・各種委員会の就任（予定があれば）は、遠慮いただく方針であることが提案され、承認された。

4. 第 3 回臨床検査専門医・管理医審議会報告（矢富 裕 理事長、山田俊幸 副理事長）

1) 日本臨床検査医学会臨床検査専門医および管理医の更新結果、日本専門医機構基本領域臨床検査専門医更新結果について報告された。

2) 日本臨床検査医学会臨床検査専門医受験資格（臨床検査専門医制度規定の一部改定）について臨床検査専門医認定試験受験資格の、論文、発表について緩和する（案）が提示され、承認された。

3) 日本臨床検査医学会臨床検査専門医更新資格（認定更新制度規定の一部改定案）について発表・報告単位も参加により取得したと解釈したケースがあったため、誤解のない文言に改定する（案）が提示され、承認された。

4) 管理医受験資格（臨床検査管理医制度規定の一部改定）について

日本専門医制評価・認定機構が解散しているため学会名を明確にする必要があるため、すべての学会を記載することが提示され、承認された。

5) 管理医更新資格（認定更新制度規定の一部改定）について

発表・報告単位も参加により取得したと解釈したケースがあったため、誤解のない文言に改定する（案）が提示され、承認された。

6) 学会専門医認定試験は、研修が順調に修了した場合は 2020 年が最後になり、可能な限りこれに合格するよう努力してもらいたい。ただし、不合格者や研修が修了していない受験者のために最大 5 年は救済のため何らかの試験を行う。

7) 機構専門医制度が開始されているため、更新が困難な高齢の専門医についての学会専門医更新要件の緩和、例えば 65 歳以上で更新した場合、次回からは、申請と更新料納入で更新可能とする名誉臨床検査専門医の提案があり承認され、規定の整備を進めることとなった。

8) e-learning の申込状況が報告され、申込者が少ないため理事への申込依頼がなされた。

5. アルブミンに関する WG について (矢富 裕 理事長)

測定法を中心にアルブミン検査の標準化に関して、学会として提言等を発するかどうかに関して議論され、WG を設置して指針をまとめることとなり、次回、常任理事会で WG メンバーを選定し、次回理事会に提案し、その後、活動を開始することとなった。

6. 定時社員総会後の委員会報告、講演会参加者について (矢富 裕 理事長)

社員総会后、委員会報告を行なう案が提案され承認された。各委員会に報告希望の有無、希望する場合、報告時間とスライド使用の有無を伺い進めることとなった。

社員総会后に講演会を行なうこととなっているが、参加者については、まず、評議員に社員総会と講演会の参加希望調査をし、その後、会員に講演会参加の希望を募ることとなった。

7. 第 66 回学術集会での日本医学会連携フォーラム企画について (矢富 裕 理事長、通山 薫 第 66 回学術集会長)

第 66 回学術集会での日本医学会連携フォーラムの企画として、基礎医学系である日本病理学会と臨床医学系である当学会と連携した形で開催申請することが提案され、承認された。

8. 日本病理学会と遺伝子診断の協力体制について (矢富 裕 理事長、下 正宗 理事)

臨床検査振興協議会で、日本病理学会の意見を求めることなく、「がん遺伝子パネル検査の品質・精度確保に関する基本的考え方」をまとめ公表したことに対して病理学会から反論が出ていることについて、下正宗病理担当理事に病理学会の意見を確認していただいた。悪性腫瘍に関しては明らかに固形癌が多く、それを担っているのは病理医であり、そういった意味で確認は必要だったと理解し、今後、当学会と病理学会で、遺伝子診断、分子病理の診断に関する情報交換を行なうべきとなり継続して検討していくこととなった。

9. ISO15189 に基づいた自己評価テストの作成について (矢富 裕 理事長、古田 耕 理事、村上正巳 理事)

今回の法改正にともない、当学会が 15189 に基づいた自己評価テストを作成すること、法改正後に予想される資格評価のために認定試験を提供する提案があり、方向としては望ましいとなり、継続審議していくこととなった。

10. ホームページ更新の委託について (矢富 裕 理事長)

宇宙堂八木書店 (八木秀志氏) より、2018 年末でホームページ更新作業辞退の申し出があった。このため、当座、東京大学農学部と検査部のホームページを担当している和田麻沙氏に依頼する提案があり、承認された。

11. 臨床検査の国際化の問題について (矢富 裕 理事長)

アジアを中心に推進する方向性が承認されていたが、2019 年度に韓国との合同シンポジウムを日本臨床検査自動化学会大会で開催する方向であることが報告された。

12. その他

・ ICD-11 和訳について (矢富 裕 理事長)

ICD-11 で当学会が関係する分野があり、当学会で担当すべきであるため、ICD-11 和訳チーム (仮称) を組織する必要性が提案され、承認された。リーダーに関しては、常任理事に一任された。

・ 次年度の理事会の日程調整 (矢富 裕 理事長、東條尚子 庶務理事)

次回理事会と社員総会および講演会の予定が報告された。

2019 年度第 1 回理事会 : 2019 年 3 月 23 日 (土) 10 : 00 ~ 12 : 00

2018 年度に係わる定時社員総会 : 同日 13 : 00 ~ 14 : 50

講演会 : 同日 15 : 00 ~ 17 : 00

それ以降の理事会については、原則、平日開催とすることが以前の理事会で承認されていたため、日程調整がされ、特に問題がなければ、第 3 回 : 10 月 18 日 (金)、第 4 回 12 月 20 日 (金) それぞれ 15 : 00 ~ 17 : 30 に開催する方向となった。

VI 閉会

閉会の挨拶があり第 5 回理事会は閉会された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する。

2019年2月8日

一般社団法人 日本臨床検査医学会 理事会

議長 理事長 矢 富 裕

副理事長 山 田 俊 幸

監 事 高 木 康